

慶應義塾に関連した出版物や教職員の最新著書などを中心に、本に関する情報をお届けします。

両国の複雑な関係を 最新情報をもとに解き明かす

『ロシアと中国 反米の戦略』

廣瀬陽子（総合政策学部教授）著
ちくま新書 / 886円（2018年7月）



どちらも日本の隣国であり、米国による一極支配に反発してきたロシアと中国。気鋭の国際政治学者である著者は、両国が互いの関係を緊密化させて反米という共通目標のもとに目指す新しい世界秩序、さらに日本への影響について最新の情報を交えながら丁寧に解き明かす。

ユーラシア連合と一帯一路、AIIIB、BRICS、上海協力機構、さらに石油・天然ガスなどのエネルギーに関わる両者の蜜月関係と、一方で裏に隠された互いへの不信感についても浮き彫りにし、国際情勢の緊迫を痛感させられる一冊である。

教職員執筆の最新刊

●菊澤研宗（商学部教授）著

『改革の不条理―日本の組織ではなぜ改悪がはびこるのか』朝日新聞出版
756円（2018年5月）

●川原繁人（言語文化研究所准教授）著

『ビジュアル音声学』三省堂 / 2484円（2018年7月）

●斎藤慶典（文学部教授）著

『私は自由なのかもしれない―（責任という自由）の形而上学』慶應義塾
大学出版会 / 3024円（2018年7月）

●グレゴワール・シャマユール著、渡名喜庸哲（商学部准教授）訳

『ドローンの哲学―遠隔テクノロジーと（無人化）する戦争』明石書店 /
2592円（2018年8月）

●権丈善一（商学部教授）著

『ちょっと気になる政策思想―社会保障と関わる経済学の系譜』勁草書房
2484円（2018年8月）

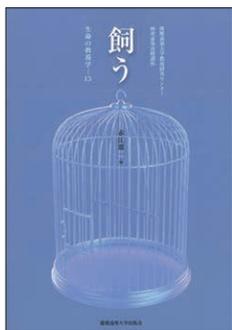
●山本龍彦（法科大学院教授）編著

『AIと憲法』日本経済新聞出版社 / 2592円（2018年8月）

慶應義塾の一冊

『飼う生命の教養学13』

赤江雄一（文学部准教授）編
慶應義塾大学出版会 / 2592円
（2018年7月）



「飼う」をテーマに開催された2016年度の教養研究センター「極東証券寄附講座「生命の教養学」」が書籍化された。日吉キャンパスの学生に開かれたこの講座は、「飼う」に関わる広範な領域から講師を招き、それぞれの専門分野から、ペット、養殖、実験動物、さらに奴隷、人身売買といった多彩な切り口で「生命」や「愛」、「権力と支配」についてアプローチしている。

「飼う」この意味と倫理を通して、私たちが生きている世界についてあらためて考えるきっかけを与えてくれる。